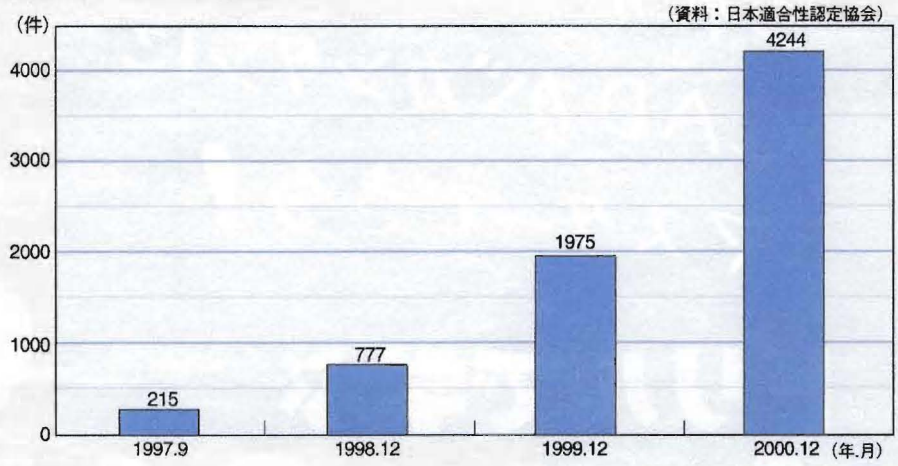
ISO認証取得のリーダーになった建設業

ISO9000シリーズの認証取得件数で，建設業は電機・電子産業と並んで一大勢力となっている。1997年には200件程度だったものが，昨年は4000社を突破した。ISOの認証取得は，中小の建設会社，建設コンサルタントまですそ野がひろがっている。

ISO9000には，開発・設計から製造，据え付けまでを対象とした「9001」，開発・設計を含まない「9002」，最終検査だけを対象とした「9003」がある。設計を行う会社は「9001」を，施工だけの会社は「9002」を取得するのが一般的だ。

●建設業のISO9000取得件数



ISO9000文書の電子管理，私はこう見る

建設会社

現場事務所にはCD-Rが便利

占部建設工業
品質システム推進管理室
室長
延明 一之

電話が引けない現場事務所もあるので，全部の文書をネットで管理するとかえって不便だ。現在は品質マニュアルや要領書をCD-Rに焼いて配布し，作成した帳票類は紙で現場で管理している。今後，すべての作業所から高速で社内にアクセスできるようになれば，ISO文書管理のネット化も検討したい。（談）

建設会社

社員の世代交代もスムーズ

望月建設
取締役社長
望月 金吉

ISOの導入前は，社長にあらゆる責任が集中していたが，ISOの導入を通じて業務ごとに責任者を決めた。その結果，社員にもやる気と責任感が出てきたと思う。文書管理の電子化による共有化を通じて，引き継ぎや社員の世代交代にも楽に対応できるようになった。今は経営面での改善にも着手している。（談）

建設コンサルタント

すべての業務がガラス張りに

中電技術コンサルタント
情報化推進室長
藤井 重造

ISOの導入は，業務をガラス張りにすることに通ずる。このことは文書管理の電子化やシステム化を図ることでいっそう促進されると感じている。ISOを導入することで仕事の責任や権限が整理されて明らかになると，業務のスピードアップや士気の向上にもつながると思う。（談）

ISO審査員

生きたシステムでないと逆効果

ISO品質システム
主任審査員
道廣 和男

ISOは計画，実施，点検，見直しのサイクルを回し続けることによって競争力強化につなげるための経営ツールへと性格が変わりつつある。会社全体の経営方針や目標と表裏一体なので，会社自体が主体的に取り組んでほしい。文書管理の電子化は，「生きたシステム」として活用できないと，かえって逆効果だ。（談）

ISOコンサルタント

事業所が一つの会社はあせらずに

プリンスキー
代表
山口 智朗

文書管理の電子化は，事業所が複数ある会社でこそ生きてくる。ISO導入時の業務フローは，電子化もにらんで計画するべきだ。われわれが提案するときも，必ず電子化のスケジュールを盛り込んでいる。事業所が一つの会社は，まずISOを定着させるのが重要で，それから電子化しても遅くないだろう。（談）

メーカー

今こそ電子化するチャンス

NECソフトウェア静岡
SI営業部
SI営業課長
田嶋 康弘

ISO，情報化問題，経営問題は互いに強い関連がある。明確な管理内容が定まっているISOは会社内部の骨格作りの有効な手段なので，ISO導入を突破口に進んでいくのが現実的だと思う。ISOの2000年版が出て，建設CALSの本格導入前の今は，紙ベースの会社は電子化に切り替えるチャンスだ。（談）